

全国で
10位!



鎌倉中
遠江入道源氏...
小笠原入道...
武田入道...
上野入道...
高木入道...

加賀美
秋山
奈古
の名も!



甲斐国
南アルプス市...
小笠原入道...
武田入道...
上野入道...
高木入道...

「六条八幡宮造営注文」鎌倉時代
（国立歴史民俗博物館蔵、山梨県立博物館発行「甲斐源氏 列島を駆ける武士団」より転載）
全国の御家人が造営費用の負担をおこなった明細といえます。甲斐国の欄には加賀美など南アルプス市が誇る甲斐源氏の名が見えます。
小笠原の名は武田と共に、この一覧の筆頭にある「鎌倉中」の中に見えます。469家ある中で、小笠原家の100貫という金額は全体の10位にあたります。

小笠原流流鏑馬の演武 今年は桃源郷マラソンの後に!

開催日 4月14日(日)
時間 13:15から神事
13:45から演武
場所 櫛形総合公園内流鏑馬専用馬場
※今年は5月のアヤマフェアではなく、マラソンの日に行いますのでご注意ください。



「小笠原流流鏑馬」
現在も南アルプス市で毎年行われ、小倉藩主となる信濃小笠原家ゆかりの流鏑馬が披露されます。今年開催時期が変わり4月14日に行われます。今日受け継がれている流鏑馬などの武家故実も、大きくは「小笠原流」と「武田流」の二つの流派で語ることができます。



弓馬の四天王

小笠原家と武田家は武家を代表する両雄

甲斐を舞台に活躍した「甲斐源氏」の面々。文献によると、鎌倉時代も終わりの頃には甲斐の武士たちは、総称して「武田・小笠原の者共」と呼ばれていたようです。つまり「小笠原家」と「武田家」は、全国に名を轟かせた甲斐源氏を代表する両雄といえるのです。

鎌倉幕府のはじめ頃に日本を代表する武将だった甲斐源氏の加賀美遠光(※1)。小笠原家は、遠光の次男長清が「小笠原」(南アルプス市小笠原)に館を構え、その地を名字としたことに始まるといわれています。

幕府の中核「鎌倉中」

源頼朝によって甲斐源氏の一族がライバル視され排除されてゆく中で、小笠原長清は、同じく甲斐源氏の武田(石和) 信光とともに頼朝の信頼を得て、勢力を伸ばしてゆきました。

『吾妻鏡』(※2)には、頼朝の書状に「...甲斐の殿原の中には、いさわ殿(信光)。かみ殿(長清)。ことにいとをししく申させ...」とあり、二人が頼朝からあつく信頼されていたことがわかります。

また、承久の乱で二人が活躍してからは、二人の子孫は鎌倉幕府の中核として活躍してゆきます。「六条八幡宮造営注文」には、各地の御家人が一覧で記されていますが、小笠原と武田の名は甲斐国の欄にはなく、この一覧の筆頭にある「鎌倉中」という、鎌倉幕府の主

な担い手であった中核メンバーの中に見つけることができるのです。

弓馬の四天王〜小笠原流へ

『武田系図』によると小笠原長清は武田信光とともに「弓馬の四天王」に数えられています。

弓馬の名手であった長清は、父遠光より源氏の弓馬の術を受け継ぎ、長清以降代々「流鏑馬」など弓馬儀礼の際の射手として小笠原家が活躍します。さらに室町時代の中頃には將軍家の弓馬故実の師範家として定着し、やがては「小笠原流礼法」として日本の生活文化の根底に根ざすこととなるのです。

山梨の武将といえはやはり「武田」が有名ですが、「小笠原」も日本文化の根底を築いた点では武田家を凌ぐ武家の一族であったといえます。

さあ、信玄公祭りの翌週には南アルプス市でも小笠原流流鏑馬が行われます。信玄公祭りに負けないくらいに盛り上げたいですね。

(※1) 甲斐源氏についてはこれまでも2010年10月11月などで採り上げています。バックナンバーについては市ホームページやふるさと文化伝承館ですべてご覧になることができます。(※2) 鎌倉時代に編さんされた歴史書で主に鎌倉幕府の事柄を記しており、鎌倉時代研究の基本史料といえます。